

CSR コミュニケーションレポート 2014



外部団体および企業とのコラボレーション



JAPAN HAIR DONATION & CHARITY

NPO 法人 JHDAC (JAPAN HAIR DONATION & CHARITY) の活動に賛同し、当社の「愛のチャリティキャンペーン」とのコラボレーションに向けた動きが進んでいます。



～みんなでひとつつながろう～ OneWorld プロジェクト

「One World プロジェクト」(協力 / 公益財団法人日本対がん協会、後援 / J-CAN) の活動に賛同し、東日本大震災で被災された、がん患者様のウィッグの「お手入れ支援サービス」を提供しています。



日本毛髪科学協会

毛髪と皮膚についての正しい知識をお客様へお伝えできるように、公益社団法人日本毛髪科学協会に加入し、社員への毛髪診断士の資格取得の推進に取り組んでいます。



ツバルの森

ツバルの森を通じて、日本国内山間部の森林再生活動に取り組んでいます。

このマークは、ツバルの森の植林の利用を表すマークです。



経営倫理実践研究センター

企業の経営倫理を実践研究するわが国初の産学協同の専門機関である一般社団法人経営倫理実践研究センターに参加し、経営倫理に関する組織体制の強化に努めています。



日本毛髪工業協同組合

毛髪業界が健全に発展し、お客様からの信頼を得られるように、業界団体「日本毛髪工業協同組合」の運営に取り組んでいます。



がん患者の生活をサポート 株式会社 VOL-NEXT

患者様が安心して、医療向けウィッグをご利用できる体制を整えるため、がん患者サービス事業会社であるVOL-NEXT 社による医療講習を実施しています。



表紙のイメージ

文字と絵を組み合わせた、独特の書画で評価の高い、女流書道家・永田紗戀様にアデランスの取り組みを、「笑顔」の文字に表現していただきました。
詳細は本文 18 ページをご覧ください。

株式会社 アデランス

CSR 推進室

〒160-0007 東京都新宿区荒木町 13 番地 4
住友不動産四谷ビル

TEL: 03-3350-3542

E-mail: csr@aderans.com

URL: <http://www.aderans.com/csr/>



2014 年 4 月に国連グローバル・コンパクトに加入しました。社会の良き一員として、持続可能な成長を実現し、本業を通じて社会に貢献する「事業と一体となった戦略的 CSR」を積極的に推し進めて参ります。

2014 年 9 月発行

笑顔のために
これまでも、そしてこれからも続けていく
アデランスの取り組み

株式会社 アデランス



株式会社アデランス
代表取締役会長兼社長 (CEO)
根本 信男

当社は、1968年の創業以来、「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思いで事業に取り組み、2013年には創業45周年を迎えることができました。

お客様の毛髪に対するニーズに応えることで、さまざまなお客様が当社の商品をご利用いただくようになりました。その分、お客様や社会に対する、当社の責任は大きくなっています。

この毛髪業界は、もっともチャンスがあり、夢と希望を感じています。それらを適正な形で発展させることが当社のCSRであり、健全なコンプライアンスを事業の基盤に置かなければならないと考えております。

「世界のブランド アデランス」という夢を実現するため、社会的価値の新たな創造に挑戦してまいります。

アデランスの活動領域は、グローバルに広がっており、企業の社会的責任にもグローバルな視点が不可欠となっています。

そのためには、ますます厳しさを増す市場環境でのヒト・モノ・カネの資源配分をはじめ、お客様のニーズの変化に対応した商品作り、海外事業の拡大と成長、サプライチェーンのグローバル化、グローバル規模でのCSRなどといった対応が重要になってきます。

当社の財産とも言うべき社員たちが、安定して利益が出て、安心して働ける会社になると同時に社員自らの社会的責任を自覚し、自分たちの持つ能力を最大限に発揮し、また新たな能力を身につけ、やりがいを持って働ける、CSR意識溢れるグローバル企業グループを目指してまいります。



株式会社アデランス
代表取締役副社長 (COO)
石古 茂

経営理念

私たちアデランスグループの最大の使命は、
毛髪関連事業を通じて、
より多くの人々に夢と感動を提供し
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです。

私たちが目指すもの
「最高の商品」
「最高の技術」
「心からのおもてなし」

商号
株式会社アデランス

代表者
代表取締役会長兼社長 (CEO)
根本 信男

設立年月日
1969年3月1日

資本金
12,944百万円

本店所在地
東京都新宿区荒木町13番地4
住友不動産四谷ビル6階・7階

上場証券取引所
東京証券取引所第一部
(コード番号 8170)

連結子会社数
53社

国内店舗数
363店舗

国内従業員数 2,050名
国外従業員数 3,255名

活動国
16ヶ国(日本を除く)

詳細は、会社案内 2014/ 第45期有価証券報告書をご参照ください。

男性向けブランド
ADERANS

男性向けにオーダーメイド・ウィッグ、増毛商品、育毛サービスを提供しているブランドです。

毛髪移植
BOSLEY

世界24万例以上に及ぶ治療実績を誇る、毛髪移植(ヘアトランスプラント)技術を提供しているブランドです。

女性向けブランド
FONTAINE
レディス
アデランス

女性向けにオーダーメイド・ウィッグ、レディメイド・ウィッグ、ヘアケア&スカルプケアを提供しているブランドです。

海外ウィッグ
HAIRCLUB

米国で男性向け、女性向けにオーダーメイド・ウィッグ、育毛サービス、毛髪移植(ヘアトランスプラント)技術を提供しているブランドです。



医療用ウィッグの JIS 規格化

アデランスグループの加盟する日本毛髪工業協同組合では、2013 年より医療用ウィッグの JIS 化（日本工業規格）を進めており、当社は全面的にサポートしています。

この医療用ウィッグは、抗がん剤や放射線療法による脱毛、

円形脱毛症に対するウィッグなどが適用範囲となる予定です。

この JIS 化により、医療用ウィッグの品質向上、保険適用や医療費控除などの公的助成の取り組みが大きく進むことになり、患者様への経済的・精神的負担の緩和につながります。



JIS 原案作成委員会 本委員会メンバー



日本毛髪工業協同組合
事務局長
金子 英敏 様

JIS 規格化への協力

今まで、医療用ウィッグは、名称も含めて明確な基準がありませんでした。経産省の助言もあり、JIS 規格化を目指すことになりました。現在、規格案を提出し、主務大臣の認証の手続きに入っています。この JIS 規格化には、アデランスさんに、全面的にご協力をいただき、大変感謝しています。



株式会社アデランス
経営企画部副長
松岡 博之

社内のプロジェクトから外部との連携活動へと発展

社内プロジェクトがスタートして 2 年。業界団体や有識者、経済産業省、消費者代表の方などの外部と連携して JIS 規格の原案が完成しました。医療用ウィッグの国家規格化は世界初です。患者様が、安心して、安全に使用していただけるために取り組んでいきます。

AIU 損害保険との提携

2014 年 3 月、医療向けウィッグの購入費用を補償する保険を販売する AIU 損害保険株式会社とアデランスグループは、相互の事業発展を目的とした提携を開始しました。

本提携は、医療向けウィッグの存在を広く知って頂くとともに、がん治療の副作用により髪

で悩まれる患者様の QOL の維持・向上を支援することを目的としたもので、当社の CSR 小冊子の表題である「笑顔のために」を共通メッセージとして進めています。

医療向けウィッグと医療保険のコラボレーションは業界初の試みです。



クオリティ オブ ライフと笑顔のために

抗がん剤等の影響により脱毛し、悩みを抱えておられるがん患者の皆様を医療向けウィッグでサポートされているアデランス様と弊社の医療保険に付帯される「回復支援費用保険金」で、そのウィッグ購入費用を補償する点において、今回の提携は親和性が高く、お客さまに更なる安心（付加価値）をお届けできるものと考えています。

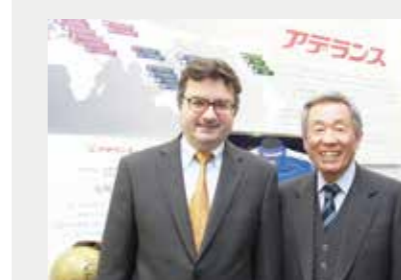
今後もアデランス様と連携して、「笑顔」のために”を合言葉に、様々な活動が出来ればと考えております。



AIU 損害保険株式会社
A&H 商品企画推進部長
小峰 篤一郎 様

英国ビジネス論文に先進的取り組みと評価
「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」

CSR 研究で著名な英国レスター大学のワグナー教授が、アデランスグループの CSR に興味をもたれ、その調査のため来社されました。英国のビジネスジャーナルに先進的なケーススタディとして取り上げられます。



英国レスター大学 ワグナー教授
当社代表取締役会長兼社長 根本 信男

とても印象深いユニークな活動

フォンテーヌ緑の森キャンペーンは、ウィッグの回収と植林の間に、顧客の社会貢献への意識と新たなウィッグの購入というアクションをうまく組み込んでいます。環境にやさしい上に、営業面での継続性を併せ持った、とてもユニークな活動だと思います。

ESD 世界フォーラムでの講演

「国連持続可能な開発のための教育の 10 年（2005-2014 年）」の最終年にあたる 2014 年、その世界会議である「ESD 世界フォーラム」が岡山で開催され、アデランスグループの取り組みについて講演を行いました。

ESD とは「持続可能な開発のための教育」と訳され、ユネスコが推進している、人や地球環境にやさしい社会づくりの担い手を育む教育のことをいいます。



米国フロリダ州知事の表敬訪問

2013 年 11 月、リック・スコットフロリダ州知事が表敬訪問のため、アデランス本社に来社されました。

知事は、「事業を通じてお客様や社会にやさしく、世の中に

多くの笑顔を広げたい」という当社の姿勢に深く共鳴され、当社の病院内ヘアサロンの取り組みや、米国現地会社へクラブ社買収による雇用創出の面で高い評価をいただきました。



国連グローバル・コンパクトに参加

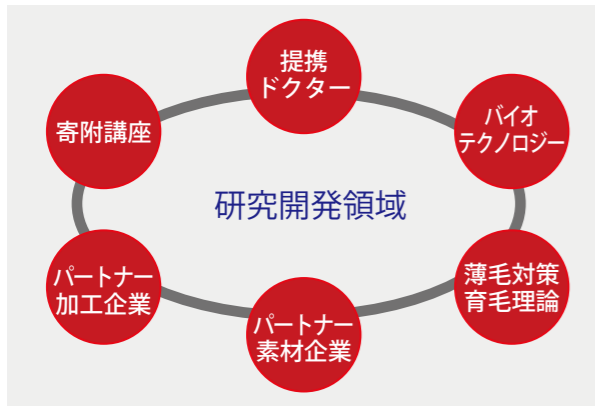
2014 年 4 月、アデランスグループは、国際社会において持続可能な成長を実現するための世界的な取り組みである国連グローバル・コンパクトに署名し、参加企業として登録されました。

今回の国連グローバル・コン

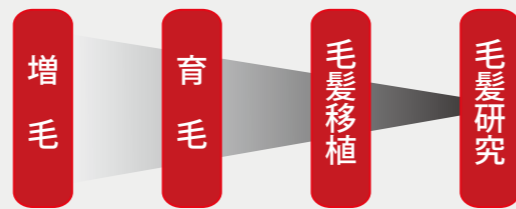
パクトへの参加を機に、原材料の調達や工場での生産、販売活動地域の拡大など、グローバルに広がる事業展開の中で、社会の良き一員として、持続可能な成長を実現するために一層の努力をまいります。



アデランスグループは、ウィッグメーカーの側面がある一方で、総合毛髪関連企業として「医学業界における毛髪研究分野専門ドクターとの提携」「パートナーである原材料メーカーや加工メーカーとの協働」「大学との最先端の毛髪理論の共同研究」など、毛髪に関する医学的研究にも力を注いでいます。



お客様に提供できる毛髪分野の拡大



人工毛髪への新たな挑戦

ほとんどのオーダーメイドウィッグには人毛が使われております。当社では、将来起こりうる人毛枯渇を想定し、安定的にウィッグ商品を提供するために、1983年より人工毛髪の研究をスタートしました。

1987年に、人毛のキューティクルに代わるものとして、高分子材料の特性を生かした球晶による擬似キューティクルを表面に形成させ、色褪せが無く、スタイルが崩れない人工毛髪の開発に成功し、1990年より「サイバーヘア」の名称で商品化し、発売

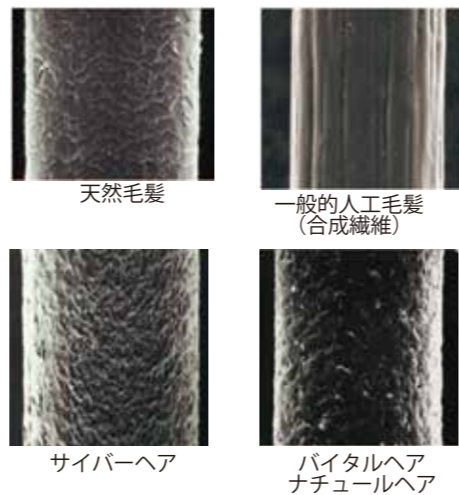
を開始しました。サイバーヘアは、海外でも評価が高く、ヨーロッパで世界的権威「モンドリアル コワフュール ポーテ 2002」でイノベーション大賞を受賞しています。



さらに、雨や洗髪など、また空気中の水分で変化する天然毛髪の風合いを表現できる「バイタルヘア」の開発にも成功し、

2006年に商品化しました。

東京工業大学の鞠谷雄士教授から高い評価をいただき、2009年から3年連続して『プラスチック成形加工学会年次大会』で研究発表を行ないました。



人工毛髪による人毛使用率の削減

人毛に劣らない人工毛髪の実現により、アデランスグループでの人毛使用率は極めて低く、人毛供給における社会的課題の対応策の一つと考えています。

環境にやさしい原材料の採用

人工毛髪は、ポリエステルですが、塩ビを使用しないことで、焼却しても汚染物質の発生しにくい原材料構成になっています。

続ける挑戦

さらなるお客様のニーズに応えるため、新素材を活用し、より自然で機能性を向上した新たな人工毛髪の開発に取り組んでいます。



株式会社アデランス 研究開発部 副長 関 正敏

毛髪関連事業を通じて、人々の暮らしを豊かにすること。それがアデランスグループの研究開発ポリシーです。時代とともに変わる、お客様の毛髪に関する悩みに応えるため、今後も積極的な研究開発を進めています。

アカデミック機関との共同研究

アデランスグループは、大学研究機関等と様々なテーマの共同研究を進め、毛髪分野に関する新たな知見を探っています。アカデミックな助言や裏付けの取れたデータを元にした育毛や毛髪研究の成果などを活用し、商品力を高めることでお客様の喜びの輪を広げていきたいと考えています。

東京大学 (2012年～)

頭髪に関するスカルプケアサイエンスの共同研究を、東京大学大学院医学系研究科・真田弘美教授の研究グループと進めています。

患者様に寄り添うスカルプケアの確立

抗がん剤治療中の女性にとって「脱毛」は心身に最もつらい副作用の1つです。我々は治療を受ける患者様のウェルビーイング(幸せ)の実現を目指しています。現在は治療中及び治療後の頭皮の症状の改善と健やかな頭皮の育成を図る看護ケアの確立のため、臨床におけるスカルプケア・サイエンス研究に取り組んでいます。



東京大学 大学院医学系研究科 助教 玉井 奈緒 様

大阪大学 (2006年～)

日本における毛髪研究の第一人者である、大阪大学大学院医学系研究科の板見智教授を中心とした研究チームと脱毛・発毛のメカニズムの解明を進めています。



2014年5月 ~第8回世界毛髪研究学会「アデランスサイエンスシンポジウム」~

ウィッグは脱毛患者のQOLを改善する医療アイテムであることを世界で初めて発表しました。



「アデランスサイエンスシンポジウム」で発表する大阪大学 乾 重樹 准教授

大分大学 (2013年～)

最先端のがん研究を行っている大分大学の猪股雅史准教授と、抗がん剤治療の副作用である脱毛の予防に関して共同研究を進めています。



2013年1月 ~抗がん剤脱毛予防に関する共同研究をスタート~

大分大学の研究成果である「αリポ酸誘導体」を用いた共同研究を開始しました。



「最高の商品」を届けるべく研究開発の重要性



株式会社アデランス 取締役 営業本部長 兼 研究開発部長 津村 佳宏

研究開発は CSR 活動に於いて、トータルヘアソリューション企業としての社会的使命を深く追求すべく、製品開発が非常に重要と考えております。

例えば、様々な原因で脱毛となり、悩まれている世界中の多くの人々に「最高の商品」を届ける為に、高品質製品の開発は元より、環境に配慮した素材開発、人毛から高

品質人工毛の開発の推進、抗ガン剤脱毛を抑制する製品の開発など、産学連携による大学との共同研究やパートナー企業との共同研究を推進しております。

アデランスは世界中の笑顔の為に、より良い製品作りに邁進して参ります。

お客様へのおもてなし

経営理念で「私たちが目指すもの」として掲げている「最高の商品」「最高の技術」「心からのおもてなし」は、一つだけ実現しても不十分で、3つ揃って初めてお客様のお悩みを解決するものです。全ては、お客様の毛髪に関する悩みをどう解決していくかという思いです。当社が果たすべき役割として、お客様に夢と感動をご提供するため社会的価値の創造に挑戦を続けてきた結果と考えています。

病院内ヘアサロンの展開、バリアフリー化・移動式理美容イスの導入

病院で療養中の患者様には抗がん剤の影響などによる脱毛に悩む人が多くおり、病院ではこうした患者様の相談に応えることが難しい状況でした。

そこで、アデランスグループでは、病院内に理美容室（病院内ヘアサロン）を開設し、ウィッグ商品やアフターケア、日常の頭髪への技術サービスなどを提供しています。

2002年に取り組みを開始し、全国で20店舗になりました。療養中の患者様だけでなく、そのご家族、病院職員などの皆様にご利用いただいております。

また、病院内ヘアサロンでは、バリアフリーを実現し、車イスでの来店も可能だけでなく、移動の困難な患者様でもサービスを提供できるように、移動式の理美容イスも導入しています。



医療講習の実施

アデランスグループでは、2005年に初めて医療向けウィッグを発売し、その際に、接客にあたるスタッフ全員に対して、外部専門家による医療講習の受講を義務付けました。現在の累計受講者数は1,500名を

超えています。

医療向けウィッグの購入者は、多くが患者様であり、各疾病や脱毛の原因などに正しい知識を持つことや、お気持ちを十分に踏まえて接客することが重要となるためです。



最高の技術

現在、社内には、独自の技術者認定試験制度や研修体制が整えられており、病院内サロンや直営店では理容師や美容師などの資格を有する、ウィッグスタイルに関する最高の技術を持つスタッフが、お客様の多様な毛髪に関するニーズに応えております。

毛髪と皮膚の正しい知識

毛髪と皮膚についての正しい知識をお客様へお伝えできるように、公益社団法人日本毛髪科学協会」に加入し、社員への毛髪診断士の資格取得の推進に取り組んでいます。

社内の毛髪診断士 取得者 270名 (2014年8月現在)

アデランスの社員が当協会認定資格「毛髪診断士」に多数認定され、認定者はアデランス1社で診断士全体の1/8を超えています。また、公益目的事業の発展を願い、賛助会員企業の理事の一人にアデランス社部長・伴仲道憲氏が就任されました。今後は、既存の視点との相乗効果を生み協会発展に寄与する事を期待しています。



公益社団法人
日本毛髪科学協会
専務理事
坂口 洋 様

アデランスグループでは、お客様や社会より信頼される会社となるために、社員一人ひとりがやる気・やりがいを高め、社員が安心して能力を最大限発揮し、新しいことにチャレンジできる環境の整備を進めています。

笑顔やよろこびの広がり

商品をご利用いただくお客様以外にも社会に広く笑顔やよろこびを広げることができないかと考え、国内外で様々な活動に取り組み続けています。

東日本大震災支援「One Worldプロジェクト」の支援延長

東日本大震災で被災された多くのがん患者様向けに、ウィッグのお手入れ等のサービスを通常価格の半額で提供する「お手入れ支援サービス」を、2012年7月から現在にわたり提供してきました。

本サービスは2014年6月末の終了を予定していましたが、継続のご要望が多く寄せられているため、今後2年間サービスを延長することになりました。



「One World プロジェクト」事務局代表
寺田 真由美 様
今回、お手入れ支援サービスの2年間延長を決定してくださったことは、私共にとっても、患者さんや患者さんを支える医療者の方々にとっても、とてもありがたい嬉しい知らせです。

福島県立医科大学附属病院
がん看護専門看護師
三浦 浅子 様



「One World プロジェクト」のご協力で、福島県立医科大学附属病院では260人の患者様にウィッグを提供しました。アデランスでシャンプーやカットを行った患者様方から助かったというお声を聞いておりますので、これからもよろしくお願いたします。

クリスマス・サンタ企画

クリスマスの時期に、自宅に帰れないおじさまのために病院を訪問し、プレゼントをお渡しする「クリスマス・サンタ企画」を30年超継続して行なっています。2013年では全国18カ所の病院で実施いたしました。



タイの病院等へのウィッグ寄贈

タイの病院等への寄贈は、2014年で3年目を迎えました。「タイ国のがん患者を省みてくれたことに感謝し、今後も闘病していきます」というコメントをいただきました。



病院内ヘアサロンとスタジオADとのコラボ

スタジオADのヘアメイクアップアーティストによるメイク講習を、病院内ヘアサロンで実施し、患者様が、メイクにより顔の印象がどのように変わるのかをお伝えしています。



My New Hairへの支援

がんや医療脱毛に苦しむ人々のためのチャリティー団体「My New Hair」へ、ウィッグを提供し、美容師に対するカット指導などの支援を行なっています。

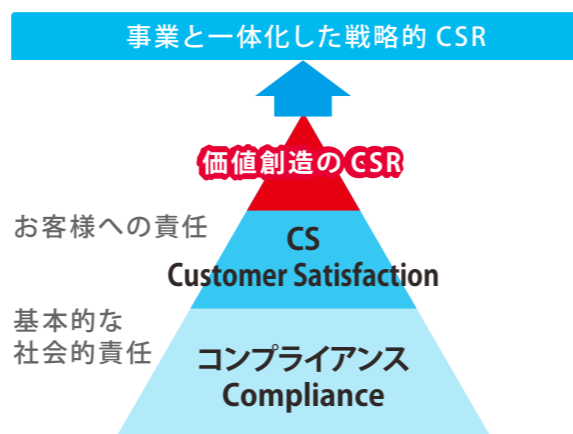


ポイント1 本業を通じた CSR と定義づける

アデランスの CSR 活動における1つ目のポイントは、CSR へ取り組むことの意義を「健全で永続的な企業成長を目指すこと」という成長ドライバーにすることで事業との一体性を明確にし、本業を通じた CSR と位置づけたことにあります。

CSR 方針

アデランスグループのCSR活動は、「社会的価値を持った活動」をさらに深め、広げていくことで、お客様や社会からの信頼に基づいた、健全で永続的な企業成長を目指すことです。



ポイント2 「社会的価値を持った活動」の「見える化」

2つ目のポイントは、組織横断的に存在する社内の「社会的価値を持った活動」の「見える化」の徹底を図り、その価値を社内外に対して積極的にコミュニケーションを図っていったことです。

※社会的価値をもった活動 = 社会的課題を自社の強みによって解決していくこと



ポイント3 国内外・新たな領域への CSR 活動の広がり

3つ目のポイントは、CSR 活動の基軸を営業現場におくこと、そして日本だけでなく海外子会社においても、お客様に最も近い場所で社会的価値を持った活動が躍動感を持って行なわれていることです。



アデランスグループは、創業以来お客様の毛髪の悩みを解決するために、自らが実現できる価値や強みを「事業と一体化」することに取り組み続けてまいりました。その価値創造型の戦略的 CSR 活動について、3つのポイントからご紹介します。

組織横断的掘り起こし

組織内に存在する社会的価値を掘り起こすために、商品企画から販売後のアフターケアまでの全事業プロセスを CSR 視点から検証をし、各担当者へのヒアリングや海外子会社の CSR への取り組み内容を調査するなど、組織横断的に、そしてグローバルに、社会的価値を持った活動がどのように行なわれているかを見出し、そうした活動の記録化に注力しました。

社外への問いかけ

掘り起こされた社会的価値を持った活動を、継続されてきた期間や重要度等から区分して一覧化し、積極的な社外での発信活動を続けました。社外からのフィードバックは、当社が考えている活動が独りよがりの思いにならないように、客観的な評価をいただくのに有効でした。



「見える化」の実現

そのようにして、評価の高かった内容を中心に、「社会・地域貢献」「お客様の安心・安全」「環境への取り組み」「学術・文化活動」に区分し、「見える化」の完成形として「CSR コミュニケーションレポート」と「小冊子:笑顔のために」にまとめました。

社内外への CSR コミュニケーション

CSR 社内コミュニケーションとして、教育研修という形とはらず、「私たちの活動は、こんなにも社会から評価されています。」ということ、営業会議などの場を活用し、CSR 小冊子を用いて社員に伝える形にしました。このように報告形式にしたことで、社員にとって CSR 活動が日々の業務に負荷されることなく、今まで行なってきた活動への再認識、または、社内にはありながら今まで知らなかった素晴らしい活動との出会いといったように非常にポジティブなものとなりました。

最近では、営業と CSR が連携し、「髪の毛のお手入れとウィッグセミナー」のテーマで、証券会社や保険会社などが主催する顧客向けセミナーで発表したり、大学での特別講義で営業のトップが「企業価値と社員の帰属意識を高める CSR」という演題で講義をしたりと、活動の広がりを見せています。



株式会社アデランス CSR 推進室 部長 箕輪 睦夫

CSR の核はコミュニケーション

当社の CSR 活動は社内外との「コミュニケーション」をその核としています。2011 年に CSR プロジェクトを立ち上げてから、当社に内在する「社会的価値を持った素晴らしい活動」を組織横断的に掘り起こし、CSR 小冊子「笑顔のために」や CSR コミュニケーションレポートで価値の「見える化」の徹

底を図りました。こうした「見える化」によって、営業現場を基軸として行われている CSR 活動を、社内だけでなく、お客様や取引先など広く社会に効果的に伝えることが CSR コミュニケーションであり、それこそが「CSR 推進室の大事な役割」と考えています。

象徴的活動



30年超続く、 笑顔とよろこびを広げる アデランスのCSR活動の原点

1978年から「愛のチャリティキャンペーン」を実施しています。以来30年超続く取り組みで、「おさまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガなどの理由で脱毛に悩むおさま（4歳から15歳まで）が笑顔を取り戻していただくため、オーダーメイドウィッグをプレゼントしています。

2012年9月にはクリスマス限定キャンペーンから通年チャリティに変更し、2014年からはレディメイドウィッグのプレゼントも開始いたしました。

フィリピン台風被害（2013年11月）への被災者支援



2013年11月、フィリピン中部を襲った台風30号の被災者に対し、フィリピンの子会社であるアデランス・フィリピン社（API）が、被害状況を鑑みて、地元の赤十字社に義援金を寄付しました。また、テレビ局に対して、即席麺などのインスタント食品と、社員から集めた募金を寄付しました。



上以外の事例などの詳細はCSRサイトをご覧ください。

日本語 <http://www.aderans.com/csr/>
 English <http://www.aderans.com/english/csr/>

United Kingdom



My New Hairへの支援

世界的なヘア・スタイリストのTREVOR SORBIE氏が主宰する、がんや医療脱毛に苦しむ人々を支援する団体「My New Hair」に、ウィッグの提供や美容師へのカット指導などの支援を行っています。

Thailand



タイの病院等へのウィッグ寄贈

生産拠点のひとつであるタイでは、これまで運用上の問題で廃棄していた、工場での試作ウィッグを、2012年より現地の病院等に寄贈しています。

Philippines



職場環境の充実度で表彰

2013年、アデランスフィリピン社は、従業員に対する職場環境の充実などが配慮されているとして表彰されました。

アデランスグループの商品をご利用いただくお客様以外にも、毛髪関連事業を通じて、社会に広く笑顔やよろこびを広げることができないかと考え、国内外で様々な活動に取り組み続けています。

活動報告

人工毛髪による 人毛使用率の削減

これまでほとんどのオーダーメイドウィッグには人毛が使われていましたが、安定調達の問題点から、アデランスグループでは、1983年より人工毛髪の研究を始め、人毛に劣らない人工毛髪の開発に成功し、1990年より「サイバーヘア」「バイタルヘア」などの商品として提供しております。

詳細は5ページ：特集アデランスの研究開発をご覧ください。

フィリピン/ラオスでの 工場設立

2013年10月にフィリピンに、最大1,200名が働ける、第2生産工場が完成しました。

また、2014年5月には、アデランス・ラオス社を設立し、タイ、フィリピンに次ぐ生産拠点を開設しました。



2014年5月 全額出資の現地法人アデランス・ラオス社を設立

海外生産体制を再編し欧米や日本の需要増で20%増産体制を確立
 ~ラオス内閣官房長官ご臨席のもと設立式典を開催~

国連グローバル・コンパクトへの取り組み

2014年4月、アデランスグループは「国連グローバル・コンパクト」に署名し、参加企業として登録されました。

アデランスグループは、国連グローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、広く社会に貢献するグローバル企業として、社会的課題に自社の強みを生かして取り組み、持続可能な社会の実現に努力してまいります。

米国フロリダ州知事の表敬訪問

2013年11月、米国フロリダ州知事リック・スコット氏が、アデランス本社を訪問し、当社の病院内ヘアサロンの取り組みや、米国現地会社へアクラブ社買収による雇用創出の面で高い評価をいただきました。



がん患者様等への支援

アデランスグループでは、がん治療等による医療脱毛に苦しむ人々に向けた支援を進めております。

(国内)

- ・ピンクリボン運動への協賛
- ・「がん緩和研究セミナー」への協力
- ・東日本大震災支援
「One World プロジェクト」ウィッグの「お手入れ支援サービス」
- ・抗がん剤治療の副作用である脱毛の予防に関する、大分大学との共同研究
- ・緩和ケアにヘアメイク講習（上智大学）



(国外)

- ・My New Hair への支援
- ・病院等へのウィッグ寄贈
- ・ピンクヘアキャンペーン

象徴的活動



病院内理美容室(ヘアサロンの)バリアフリー化 移動式理美容イス全店導入 様々なお客様のご要望にも対応

病院内に理美容室を展開し、店舗のバリアフリー化や車イスに乗ったままカットやシャンプーができる移動式理美容イスの全店導入など行ない、病気や治療によるデリケートな髪の悩みを抱える患者様にさまざまなサポートを行なっています。

患者様の中には、車イスから理美容イスへのわずかな高さの移動が難しい方もおられます。こうした患者様の声に応えたいと、理美容サロンの現場から移動式理美容イスは生まれました。座ったままカットやシャンプーができる移動式理美容イスの導入は、患者様への配慮という点で、病院関係者から高い評価をいただいております。

お客様や社会から支持される【人財】



株式会社アデランス
教育指導部長
吉村 茂

経営理念を具現化する

『最高技術・心からのおもてなし』は教育指導部の最重要課題と捉えています。

技術や心を育て、お客様や社会に支持される【人財】をひとりでも多く育てる為に様々な研修を実施しています。



経営理念を具現化するために、当社の社員自ら集まり、お客様の満足とは何かを考え、全社員が共通の認識を持ち、行動できるようにまとめたものが「クレド (Credo)」です。



上以外の事例などの詳細は CSR サイトをご覧ください。

日本語 <http://www.aderans.com/csr/>
 English <http://www.aderans.com/english/csr/>

活動報告

病院内ヘアサロンの展開

病院内ヘアサロン

現在、国内では 20 の病院 (2014 年 7 月現在) に、バリアフリーの病院内理美容室と、移動式理美容イスを導入し、様々な患者様のご要望に対応できるようにしています。

病院内ヘアサロンとスタジオADとのコラボ

病院内ヘアサロンとスタジオ AD との社会的価値が結びついた、新たな取り組みを始めています。

スタジオ AD のヘアメイクアップアーティストによるメイク講習を、病院内ヘアサロンで実施し、抗がん剤治療によって、頭髮だけでなく、まゆ毛やまつ毛まで無くなってしまふ患者様が、メイクにより顔の印象がどのように変わるかを実際に体験していただき、そのメイクの方法をお伝えしています。

スタジオ AD が芸能分野で培ったノウハウが、医療分野にも役立ち、患者様の笑顔と元気を取り戻す力となります。



お客様に向けた取り組み

クレド お客様へのサービスポリシー

2009 年、当社の社員自ら集まり、お客様の満足とは何かを考え、社員が共通の認識を持ち、行動できるように、「クレド (Credo)」をまとめました。クレドとは、判断・行動の基本となる信条、志、約束などの意味です。当社の社員は常にクレドを携帯し、経営理念およびクレドの実現に向けて考動(「考え」+「行動」)しています。

お客様のことを考えた 商品改良事例 ～ウィッグ初の「抗菌加工」～

2013 年に、医療向けウィッグに、抗菌加工の裏地ネットを採用し、感染性の高い肺炎カン菌などの増殖を抑制することができるようになりました。

お客様のために

「安心して使用して頂ける商品」と「肌にやさしく使いごちに優れた商品」をテーマに、ウィッグのヘアスタイル・毛材・土台となるキャップ素材・それらに関わるテープ類・ピン類・装着方法など、すべてにおいて安全性と高品質を追求しています。



株式会社アデランス
商品企画部長
千藤 伸一

業界品質向上に向けた取り組み

「日本毛髪工業協同組合」(経済産業省認可)

「日本毛髪工業協同組合」は、1970 年 6 月に通商産業 (現経済産業) 大臣より認可を受け設立された業界で唯一の認可団体です。お客様からの質問やご要望の窓口として、また関係省庁からの関連情報のとりまとめ窓口として活動しております。2013 年 4 月には、業界団体である「一般社団法人日本毛髪業協会」を統合し、毛髪業界 13 社が加盟する団体となりました。

当社の根本会長兼社長が 1991 年から 13 年間理事長職に就き、業界の相互信頼や透明性の実現に尽力し、その功績により、藍綬褒章を受章しました。

医療用ウィッグのJIS規格化

医療用ウィッグの品質向上のため、日本規格協会への医療用ウィッグの JIS 化の申請業務を、全面的にサポートしています。

JIS 規格化が実現することは、保険適用や医療費控除といった公的助成への大きな一歩であると考え、患者様への経済的・精神的負担の緩和に貢献していきます。



医療ウィッグ接客のための医療講習

患者様が安心してご利用いただけるよう、接客にあたるスタッフ全員に対して、外部講師による医療講習の受講を義務付け、現在 1,500 名以上の社員が受講しています。



ISO9001の取得

主要生産拠点であるタイ工場では、安定した製品クオリティを維持するため、1999 年に ISO9001 (国際品質管理規格) を取得しております。



病院内ヘアサロンの海外展開

日本で評価の高い、病院内ヘアサロンのスウェーデンでの導入を 2011 年から始めています。今後、欧州だけでなく米国への展開を予定しています。

象徴的活動



ウィッグの回収と植林を結ぶ エコサイクル フォンテーヌ緑の森 800本以上を植林

2009年より「フォンテーヌ 緑の森キャンペーン」と称し、環境コミュニケーション企業である「ツバルの森」を通じ、国内の山に木を植える活動を行なっています。現在6年目を迎え、累計800本以上の植林実績を残しています。

この「フォンテーヌの森」の取り組みは、英国レスター大学のワグナー教授に「社会貢献と売上というアクションをうまく組み込んだもので、継続性を併せ持ったとてもユニークな活動である」と高い評価をいただき、英国のビジネスジャーナルに先進的なケーススタディとして取り上げられます。

LED を活用した店舗へ



株式会社アデランス
店舗開発部長
和田 富己夫

環境とお客様のために

女性サロンにおいては、お客様が理想のヘアスタイルを見つけられるように、多彩なスタイルのウィッグを数多く展示する「スタイル・ミュージアム」の導入を進めています。

さらに店舗の新設やリニューアルの際に、照明のLED化など、消費電力の低減を図り、環境負荷が軽減した店舗造りを目指しています。



上以外の事例などの詳細は CSR サイトをご覧ください。
日本語 <http://www.aderans.com/csr/>
English <http://www.aderans.com/english/csr/>

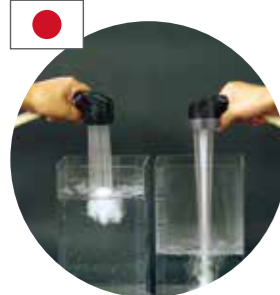
Thailand



ISO14000の取得

1999年にISO14001(国際環境管理規格)を認証取得し、環境保全の取り組みを継続して実施しております。

Japan



節水用シャワーヘッドの導入

理美容技術を提供する営業店舗に節水用シャワーヘッドを導入し、水道水の節水や温水化するためのCO₂削減に効果を発揮しております。

Japan



3Dスキャナーによる型取りシステム

新たな型取りシステム導入により、材料としてのフィッター使用を削減できるとともに、国内外のフィッター輸送が不要になるためエネルギーの軽減につながり、環境にやさしい対応ができるようになりました。

活動報告

フォンテーヌ 緑の森キャンペーン

アデランスグループの主力商品であるウィッグは、約80%以上が人工毛で作られております。お客様がご購入されたウィッグは、経年の利用とともに劣化し、ご不要となることがあります。その場合、家庭ごみとして廃棄されると、人工毛に含まれる成分により、CO₂の発生が危惧されます。

そのようなウィッグを回収して、適切な廃棄処理を行うことで、環境負荷への影響を低減することができるのではという思いから始まったのが「フォンテーヌ 緑の森キャンペーン」です。ご協力いただいたお客様には、クーポンをお渡し、そのクーポンを購入時にご利用いただくことで植林活動にもつながる、という仕組みです。環境にやさしいキャンペーンとして、環境コミュニケーション企業である「ツバルの森」と協働で、2009年から継続的に実施しています。

使われなくなったウィッグ

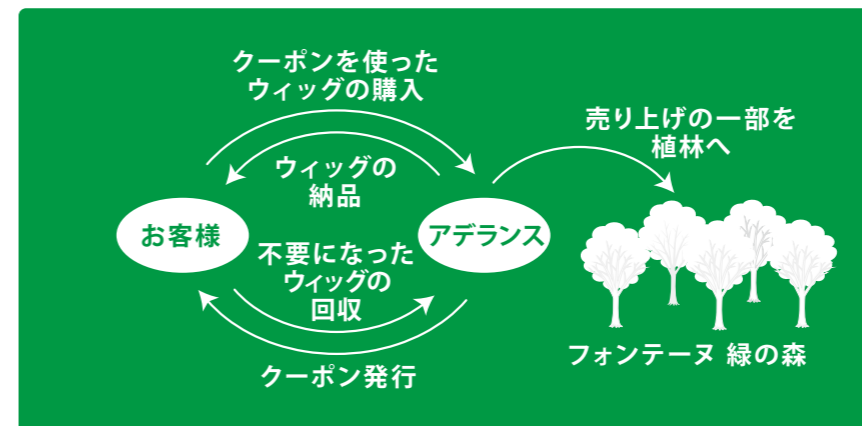


キャンペーンをお知らせするDM



年度	植林本数
2009年	65本
2010年	225本
2011年	40本
2012年	75本
2013年	150本
2014年	247本
計	802本

フォンテーヌ緑の森キャンペーン スキーム図



企業としての製品販売の社会的責任を確認

お客様へ最高の技術とクオリティの高い商品の提供を追求している営業の立場として、今回ウィッグの廃棄現場での処理が環境に配慮する形で適正に行われていることを確認してまいりました。企業として、商品に対する責任を廃棄に至るまで果たす、お客様や社会に対する責任ある姿勢を感じることができました。



株式会社アデランス
AD営業企画部
(EC・リテール担当部長)
徳永 輝行

タイ工場での取り組み ウィッグ製作時の廃材を 利用したグッズの試作

ウィッグ製作時に発生する廃材を、資源の無駄をなくし有効活用できないかと考え、造花、車拭きやクッション、サンダルなど多種多様な試作に取り組んでいます。造花については現在、現地での定年退職者への花束贈呈等に利用しています。



アデランスグループは、「笑顔」や「よろこび」あふれる社会の実現をめざし、当社の強みを活かせる「毛髪・ウィッグ」領域での活動に重点を置いています。

象徴的活動



撮影：荒井健

ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団 スタジオAD

1983年にミュージカル「キャッツ」が劇団四季によって日本で初演されました。キャッツの激しいダンスの動きに耐えるウィッグは、劇団四季のヘアメイク、衣装デザイン担当者と当社スタッフが協力して開発したものです。

アデランスグループ独自の芸能用ウィッグは、その後、「オペラ座の怪人」、「美女と野獣」といった日本を代表する舞台芸術に採用され、その他さまざまな映画やテレビ、コンサートなどにおいても使用されております。

アデランスの文化芸能部門であるスタジオADでは、ウィッグを多彩な文化芸能活動に提供することで、ウィッグ文化の普及に努めております。

Japan



アカデミック機関との共同研究

毛髪研究の先駆者として、大学等のアカデミック機関と協働しながら、毛髪分野に関する新たな知見を探っています。

Japan



輝く女性への応援

自分らしく生き、今を輝く女性のみなさまを、毛髪・ウィッグを通じたサポートをしています。

(タンゴ歌手 冴木杏奈様 (下段左端))

Japan



経営学術団体への協力

経営学術団体での事例研究等に、アデランスグループの進めてきた「事業と一体化した戦略的CSR」活動が採用されています。

今回の表紙「笑顔」に寄せて



書道家
永田 紗戀様

作品から笑顔が つながることを心から祈って

「世界中に広がる笑顔を描いてほしい」CSR部長箕輪氏の温かいお言葉からこの作品は生まれました！赤ちゃんが笑うとこちらも笑ってしまう様に笑顔は連鎖するものです。見た瞬間に、漢字が読めない外国の方も、お子様も、思わず笑顔がこぼれてしまう作品にしたい。「笑顔」の中から花々や笑顔が溢れている風景を描きました。



表紙を書かれた永田紗戀様の活動は、イギリスにも広がっています。



上以外の事例などの詳細はCSRサイトをご覧ください。

日本語 <http://www.aderans.com/csr/>

English <http://www.aderans.com/english/csr/>

活動報告

アカデミック機関との共同研究

毛髪分野への挑戦

時代とともに変わるお客様の毛髪に関する悩みに応えるため、今後も積極的な研究開発を進めてまいります。

詳細は5ページ：特集アデランスの研究開発をご覧ください。

毛髪関連学会等への協賛

看護理工学会、日本臨床毛髪学会、日本がん看護学会、日本皮膚科学会、日本毛髪科学研究会、世界毛髪研究学会等に対し、毛髪に関する学術研究会議へのセミナー提供やスポンサーといった協賛活動を行なっております。



2014年5月に韓国で開催された世界毛髪研究学会で「アデランス・サイエンス・シンポジウム」を開催し、「ウィッグは脱毛症患者のQOLを改善する医療アイテムである」と、初めて世界に向けて発信しました。

輝く女性への応援

タンゴ歌手 冴木 杏奈 様

NewsWeek 日本版 (2005年10/26号) で「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれるなど、世界で活躍し、タンゴ界を代表する、冴木杏奈様のコンサートツアーやイベント等に、アデランスグループのウィッグを提供し、利用いただいております。

2013年6月のパリでの公演や2014年3月のNYでの公演などでは、当社の現地子会社と一体となって、ウィッグとヘアメイクのサポートをしました。

書道家 永田 紗戀 様

女性ならではの素直な言葉と、そこからイメージする彩色豊かな作品、書道の枠を超えた自由な雰囲気が多く女性から支持されている書道家・永田紗戀様。永田様には当社の社内報の表紙・カレンダーや、本レポートの表紙等、多くの作品を書き下ろしいただいております。



経営学術団体への協力

アデランスグループの進めてきた「事業と一体化した戦略的CSR」活動に関して、経営学術団体や経営系大学からの関心が高く、書籍への事例掲載や、講演活動などを通じて、事例研究等に活用いただいております。

(書籍関連)

- ・「人事実務」への取材記事
- ・英国レスター大学
- ・日本経営倫理学会

(講演関連)

- ・日本経営倫理学会
- ・日本ドラッカー学会
- ・東京大学大学院
- ・駿河台大学
- ・追手門学院大学
- ・金沢工業大学
- ・関西大学
- ・埼玉大学
- ・東洋大学
- ・神戸学院大学
- ・札幌学院大学
- ・明治学院大学



海外での取り組み

現在、アデランスグループは、世界 16 国で事業を展開しています。各国の海外子会社においても、国内のCSRの取り組みと連動して、「笑顔を広げる」活動を実施しております。

主な活動内容

United Kingdom



英国で広がるアデランスのCSR活動

英国中心に事業活動を行なうアデランス・UK では、がんや医療脱毛に苦しむ人々のためのチャリティー「My New Hair」※や、大人と子供の脱毛症のためのグループ「BeBold」といった、多くのチャリティーや団体とも緊密に連携しています。また、英国における、病院内ヘアサロンの可能性についても調査を進めています。

※「MyNewHair」は、世界的なヘア・スタイリストである TREVOR SORBIE 氏によって設立された、抗がん剤による脱毛に苦しむ人々へウィッグのスタイリングアドバイスを提供する団体です。

ガンなどの患者様にとって、病気治療により毛髪を失うことは、外出を控えたり、帽子をかぶって隠すなど、日常生活を制限することにもつながり、とても精神的負担の大きいものです。

ウィッグにより、その精神的負担を和らげることができるのではないかと。患者様と美容師の方に向けて、活動を始めたのが、「MyNewHair」です。



ゼネラルマネージャー
リン・ハリス

Philippines



高品質の製品を支える生産現場

2013 年 10 月に、アデランスグループの主要生産拠点であるフィリピンに第2工場が完成しました。最大 1200 名が働くことのできる巨大な工場で、日本向け・欧米向け製品の生産を行なっています。

工場で働く現地従業員が働きやすいように、職場環境の改善に取り組んでおり、2013 年には、フィリピンの労働省管轄の“MDG ACHIEVEMENT FUND”から、従業員（特に女性）に対する職場環境の充実、福利厚生面での促進、従業員の家族に対して配慮されているとして表彰されました。



上以外の事例などの詳細は CSR サイトをご覧ください。
日本語 <http://www.aderans.com/csr/>
English <http://www.aderans.com/english/csr/>

CSR 広報活動

アデランスグループの CSR 活動や取り組みを、多くの方に知っていただくため、ステークホルダー・コミュニケーションの一環で、イベント等での講演やメディア等の取材協力を行っております。

主な活動内容

2013 年	7 月	・【講演】追手門学院大学・経営学部経営学科 / マーケティング学科
	8 月	・【講演】関西大学・社会安全学部・大学院社会安全研究科 高野ゼミ ・【講演】ツバルの森主催の個人投資家向けイベント「IR フォーラム 2013」
	9 月	・【講演】日本経営倫理学会 CSR 研究部会 ・【講演】ツバルの森主催の個人投資家向けイベント「2013 ウーマンプレミアム」
	10 月	・【講演】野村證券 成城支店・「野村のハッピーライフセミナー」 ・【講演】関西大学・社会安全学部 ・【講演】埼玉大学・経済学部 CSR 特別講義
	11 月	・【講演】日本証券アナリスト協会東海地区交流会・CSR セミナー ・【講演】東洋大学・経営学部 CSR 特別講義
	12 月	・【講演】金沢工業大学・岡部ゼミ CSR 特別講義 ・【講演】神戸学院大学・CSR 特別講義 ・【講演】野村證券 和歌山支店・「野村のハッピーライフセミナー」 ・【講演】札幌学院大学・CSR 特別講義 ・【講演】愛生館クラブ・CSR セミナー
2014 年	2 月	・【講演】野村證券 秋田支店・「野村のハッピーライフセミナー」 ・CSR パンフレット（日本語・英語）を発行
	4 月	・【講演】駿河台大学・経済経営学部 ・【講演】「全国在宅リハビリテーションを考える会」
	5 月	・【講演】野村證券 町田支店・「野村のハッピーライフセミナー」
	6 月	・【講演】明治学院大学・経済学部
	7 月	・【講演】ESD 世界フォーラム

	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
アナリスト・投資家向けセミナー	1 回	1 回	7 回	2 回
企業・一般向けセミナー	1 回	2 回	3 回	2 回
大学での CSR 特別講義	0 回	2 回	11 回	3 回

※2014 年 7 月現在

主な取材協力



NHK放送コンテスト

北海道帯広三条高校放送部が、第 61 回 NHK 杯全国高校放送コンテストに応募した「髪の手紙」の作品の取材に協力しました。



英国レスター大学

当社の「事業と一体化した戦略的 CSR」が、英国レスター大学のワグナー教授に評価され、英国ビジネスジャーナルに先進的事例として取り上げられます。



専門誌での特集記事

産労総合研究所が発行する『人事実務 2014 年 6 月号』に「CSR 経営」というテーマで、8 ページにわたって当社の記事が掲載されました。



株式会社アデランス
広報 IR 室
新田 香子

人々を笑顔にしたいという想いこそが活動の原点

日々の企業活動の中に、CSR の取り組みはたくさんあります。人々を笑顔にしたいという想いこそが活動の原点だと感じます。社内報では、そうした社内の様々な動きを、CSR 推進室と連携して社員に伝えていくようにしています。

ステークホルダー・ダイアログ

2012年、2013年のCSRコミュニケーションレポートのステークホルダー・ダイアログにおいて、外部の有識者としてご意見をいただいた田中宏司先生をお招きして、過去3年間の振り返りを含め、当社の津村佳宏 取締役営業本部長と箕輪睦夫 CSR推進室部長と対談をしていただきました。

津村 田中先生にはCSRやコンプライアンスの専門家の立場から、当社のステークホルダー・ダイアログにご参加いただき、ありがとうございます。3年間の総括も含め、当社のCSR活動についてご意見をいただければと思います。

田中 御社の特徴として、経営トップがCSR活動に対し積極的に関与していること、そしてCSR活動がウィッグや毛髪関連といった本業の活動と整合性を持っていることが挙げられます。その部分が他社と比べて抜き目出しており、先進的なCSR活動として他社から注目される独自の成果につながっていると考えます。また、こうしたステークホルダー・ダイアログに取締役営業本部長の津村さんが出られていることは、御社のCSR活動が事業と一体化した活動であることを明確に示しています。

箕輪 当社のCSR活動は2011年3月からプロジェクトとしてスタートし、3年経過した今年3月から「CSR推進室」としてその活動範囲をグローバルなものへと広げております。スタート当初は、社内に存在する「社会的価値を持った活動」を組織横断的に掘り起こすことから始めました。そして、掘り起こした活動を「見える化」し、先ずは外部に発信して、外部の方から評価の高かった活動を、ホームページやCSR小冊子「笑顔のために」などにまとめ、社内外との積極的なコミュニケーションに活かしております。

田中 御社のホームページを見ると、CSR活動報告のページがあり、それが毎月更新されており、実際に積極的な活動をされていることがわかります。CSRレポートの作成のために年に一度改めて活動を整理するのではなく、御社のように毎月の活動の積み重ねをCSRレポートに載せて活かしていくという方法は、とても重要であると考えます。また、社員向けだけではなく、社外の団体や投資家向けイベント、大学などで積極的に講演を行っており、ステークホルダーとの協働にも積極的に取り組んでいる姿勢が評価されます。

津村 協働といった点で、研究開発とCSR活動は表裏一体のものと考えており、専門的なアカデミック機関と共同研究などで積極的に連携を図っております。また、大学だけでなく取引先企業についても「研究パートナー」として捉え、当社の研究開発レポート「アデランスプラス」においてその研究内容を取り上げております。

箕輪 社内へのCSRの浸透については、毎月の営業本部会議での活動報告だけでなく、全国の店長会議を回ったり、様々な社員研修の場で「CSR報告」を行ったりして、できるだけ社員の皆さんに直接伝える形をとっております。また、経営陣に対しても「CSR月次報告」としてまとめ、毎月の活動実績について報告しています。こういった社内に向けた積極的なコミュニケーション活動が、CSR活動への理解を深めることにつながっていると考えます。

田中 営業本部会議や店長会議での報告は、CSR活動情報を実践事例を用いて共有化を図っている点で、他社との大きな違いであるといえます。また、取引先との関係においては、先程の「アデランスプラス」をCSRレポートと並行して有効的に活用することで、さらにより関係を築くことができるのではないかと思います。

津村 私は、CSRは経営上における重要項目と考えております。単に商品を販売するのではなく、例えば医療向け商品の企画において、お客様の頭皮にやさしい商品にするにはどうすればいいのかを念頭に置き、社会的課題を解決していくことだと思います。また、お客様だけでなく、社会に対しても誠実な企業でありたいと思っています。当社は今年4月に「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。国連グローバル・コンパクトの考えに沿って、様々な社会的な課題に取り組み、解決に向け努力していこうと思います。

田中 国際的に展開していく企業は、「ISO26000」などのグローバル・スタンダードに準拠していかなければならないと言われております。御社のCSR活動はこういったグローバル・スタンダードに対応しています。現在でも既にグローバル企業として世界で活躍されていますが、日本を代表する世界ブランドになるためにも、更にCSR活動に積極的に取り組み、その活動を世界的に広げていただくことを期待します。

田中 宏司 様

東京交通短期大学 名誉教授
(社)経営倫理実践研究センター 理事・首席研究員
日本経営倫理学会前副会長
元 経済産業省「ISO26000 JIS 化本委員会」委員

目次

トップメッセージ	1	社会・地域貢献	11
特集1：新たな戦略的CSR	3	お客様の安心・安全	13
特集2：アデランスの研究開発	5	環境への取り組み	15
特集3：人への思いやり	7	学術・文化活動	17
特集4：戦略的CSRの振り返り	9	海外での取り組み	19
		ステークホルダー・ダイアログ	21
		目次・編集方針 等	22

編集方針

「CSRコミュニケーションレポート2014」発行にあたり

2012年、当社として初めての「CSRコミュニケーションレポート」を発行したことは、当社のこれまでの取り組み内容を社内外に伝えただけでなく、新たな活動のきっかけにもつながってきています。

そして、2014年4月に国連グローバルコンパクトに署名・加盟し、「CSRコミュニケーションレポート」の持つ責任がより重くなりました。

今回のレポートでは、ますます広がりを見せる当社の取り組み内容にフォーカスして、取り上げていきます。

お客様、お取引先、社員、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様におかれましては、本書をご高覧の上、当社の社会的価値の創造についてご理解いただくと共に、率直なご意見や今後当社に期待されること、ご要望等を頂戴できれば幸いです。

CSR重要課題

あらゆる種類の組織のための社会的責任に関する手引である国際規格ISO26000が2010年に発行されました。持続可能な社会を目指す当社の活動(本紙11ページから18ページに記載)は、ISO26000の7つの中核主題に基づき分類しています。

— 7つの中核主題 —	
組織統治	人権
労働慣行	環境
公正な事業慣行	消費者課題
コミュニティへの参画及び発展	

報告書の対象期間と範囲

対象期間:2013年3月~2014年2月まで。
ただし、特徴的で継続的な活動についてはこれ以降の最新の情報もご紹介しています。

対象範囲

株式会社アデランス及び主要グループ会社を含みます。

経営方針や財務情報に関して

業績やコーポレートガバナンスなどについては当社IRサイトをご覧ください。

<http://www.aderans.com/ir/index.html>

企画・制作

株式会社アデランス CSR推進室
アドバイス・サポート:ツバルの森

発行年月と次回発行予定

発行日:2014年9月

次回:2015年8月予定

CSR情報開示の体系

アデランスグループの様々な活動を、ステークホルダーの皆様へ適切に情報をお届けできるよう、「冊子版」と「Web」の形式でまとめています。

冊子版



冊子版では、「CSRコミュニケーションレポート」「笑顔のために」の2誌において、特徴や進展のある活動内容をクローズアップして紹介しています。

Web



冊子で紹介していない活動内容や数値・データ等を集約し、開示しています。

<http://www.aderans.com/csr/>